







お花の栽培シリーズ「リンドウ」		
2009年11月	霜月(しもつき)・雪待月(ゆきまちづき)・霜降月(しもふりづき)・冬半(とうはん)・仲冬(ちゅうとう)・神楽つき(かぐらづき)	●霜対策と越冬対策を行う時期
<p>●朝夕は肌寒いけれど、日中はおだやかな晴天が続きます。さまざまな木々の効用が目をたのませてくれます。</p> <p>●冬に向けて防寒対策をしっかりと行い、植物の保護を忘れずに!</p>		
庭木の作業	<p>・落葉樹の植えかえが下旬から可能になります。葉がすっかり落ちて、休眠にはいったらはじめましょう。</p> <p>・落葉樹の手入れは、落葉後にとりかかります。常緑樹には手をつけてはいけません。</p>	
草花の作業	<p>・10月下旬から、ユリの球根の植え付けが適期となります。</p> <p>・秋まきした苗や、植えかえしたばかりのものはビニールなどで覆い、風や霜を防ぐ。</p>	

今月の誕生花	サフラン・シクラメン・シンビジウム	
今月の花	<p>リンドウ 花言葉/悲しんでいるあなたを愛する</p>	
	<p>群生せず、1本で咲く姿と、紫のイメージなどから、『悲しんでいるあなたを愛する』という花言葉が生まれたといわれています。</p> <p>昔、修験者の役小角が日光の奥山で、この根の薬効を発見したという話が「二荒縁起」にあります。役小角が山道を歩いていると、1匹のウサギが雪の中から現れ、リンドウの草を雪の中から掘り出してはなめていました。役小角が不思議に思ってウサギに尋ねると、主人が病氣なのでこの草を探していたのだと答え、走り去ったそうです。小角も試しにその草の根を掘り取り、病人に飲ませてみたところ、優れた効き目があったので「二荒神のお告げに違いない」と思ったというのです。それ以降、日光では、リンドウが霊草になったということです。</p>	
	<p>リンドウは、日本古来から女性たちに愛されてきました。清少納言は「枕草子」で、「りんだうは、枝ざしなどもむつかしけれど、こと花どものみ霜枯れたるに、いとほなやかなる色あひにてさし出たる」としてしています。</p>	<p>原産地は本州中部以北～サハリン、千島(アフリカ以外の亜寒帯から熱帯)。リンドウ科リンドウ属の多年草。草丈は20～100cm。開花時期は9～11月。最盛期は9月。葉の形状は、卵形または披針形、対生または輪生。花色は、青紫～紫紅色、白。英名ゲンチアナ(Gentiana)。別名 トウリンドウ、竜担(漢字表記)花持ちは5～10日程度。</p>

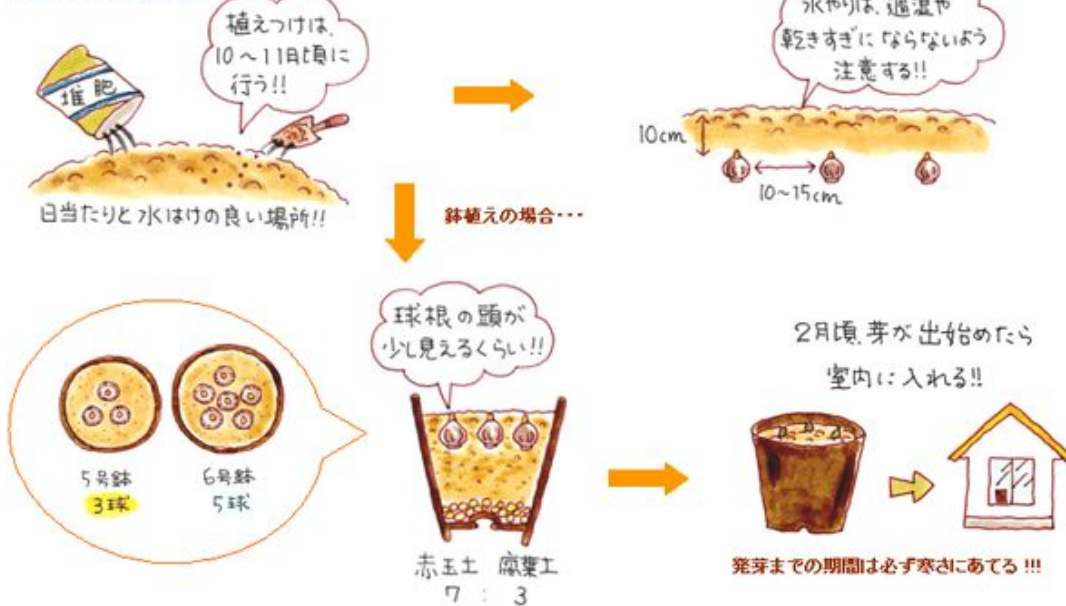
日当たり  日なた	水やり  乾燥に弱い	気温  10~20℃	草丈  20~70cm	花色 
--	---	---	--	--



たいへんポピュラーな育てやすい花で、花壇でも鉢植えでも楽しむことができます。植えつけは10~11月に行います。発芽前に乾燥させてしまうと、花芽がつぶれてしまいます。落ち葉をかぶせたり、球根を植えつけた鉢を土に埋めるなどして、乾燥を防ぎます。土に埋める方法以外は、毎日水やりを心がけます。水は、土が乾ききる前に与えますが、水はけが悪いと、腐ったり病気にかかりやすくなったりするので注意します。また、発芽までの期間に寒さに当てないと、花が咲きません。鉢植えの場合も、植えつけ後は屋外に置いて発芽させ、芽が伸びはじめたら、室内に移します。花が咲き終わった球根は、掘り上げて保管できますが、チューリップの品種の多くはウイルス性の病気にかかりやすいので、毎年新しい球根を購入して植えつけたほうが、きれいな花を咲かせることができます。

● 植えつけのやり方

腐熟した堆肥をよく耕します



【乾燥対策】



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育状況	花期 											
植え場所	<p>屋外の日当たりがよい場所 ※ほどよく直射日光が透らされると花が長持ちする ※鉢植えは2月から開花期まで 室内の日当たりの良い場所でもOK</p> <p>屋外の日当たりがよい場所</p>											
水やり	<p>表土が乾いたら与える (2~3日1回) 表土が乾いたら与える (1日1回) 2~3日1回 表土が乾ききる前に与える (2~3日1回)</p>											
肥料	<p>発芽が揃ったころ液肥を1~2回与えると大きな花が咲く 肥料は与えなくて良い</p> <p>元肥</p>											
病気・害虫	<p> アブラムシとポトリチス病の予防に、月1~2回薬剤を散布する ※芽が病気に冒されやすいので、水のやりすぎに注意する</p>											
作業	<p>花がら摘み  開花後は茎を残して花だけ摘む 掘り上げ </p> <p>植えつけ  鉢植えは室内へ移す</p>											